

平成 19 年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会

— 次期開催地挨拶 —



北海道稚内市 市長 横田 耕一

皆さん、こんにちは。只今、ご紹介頂きました北海道稚内市の市長の横田と申します。この度は、只今、来年度の開催地として、ご指名頂きました。こころから感謝申し上げさせていただきます。今も申し上げましたけれども、平成13年度に総会を開催させて頂いておりますので、2度目という事になります。北海道稚内市と聞きますと、たぶん、ずいぶん遠いところだなあとすぐにお思いだろうと思いますが、飛行機を乗り継いでいただきますと、比較的早くつきますのでどうかたくさんの皆様方に市にお訪ね頂きますことを心からお願いを申し上げたいと思います。

来年稚内市は新生施行60年という節目の年を迎えることとなります。また、この数年なのですけれども、稚内市の歴史にとって様々な節目の年でございまして、ちょっとご紹介致しますと、今年はフランスの提督でラペルズという人がいるのですが、宗谷海峡、実は国際的にはラペルズ海峡と言うように称されています。これは1700年代に、そのラペルズが初めて、欧州人として、この海峡を通った。ということから名付けられているのですが、彼が宗谷海峡（ラペルズ海峡）通過して220年ということでございまして、私も、帰ってすぐ来週、フランスからフランスの大使をおまねきしてそのラペルズの顕彰碑を建てることになっています。そんなような年ですとか、あるいは、来年は間宮林蔵ご承知の方も多とおもいますが、初めて樺太に探検にいったとう年から数えて、200年というこういうような年になっております。それ以外にもたくさんのそういう節目の年になっておりまして、一連のこの節目を一つのイベントとしてとらえていこうと言うことで、今、計画中や、あるいは実施をしているところです。このテーマを海というふうに致しました。というのは、間宮林蔵がわたった宗谷海峡、あるいはラペルズが通過した宗谷海峡、あるいは私どもの街は三方海に囲まれていまして、主力産業は漁業なわけですね。ですから、本当にこの海の恵みで発展してきたと言うことでありますから、そういう歴史をもう一回振り返ろうとそして、新しい21世紀のまちづくりをしていこうという意味で海というテーマを定めて今進めているところであります。

そんな中、このネットワークの総会を本市で開催して頂くのはとても意義深い事だというふうに思っております。私どもも一生懸命皆様方をお迎えして、素晴らしい総会にするように努力をしていきたいというふうに思っております。

また、みなとオアシスも、北海道遅れておりまして、遅れているからいいのですけれども、北海道の第一号をめざして今、取り組んでおります。今年度中には、登録をして頂こうということで、今、運輸会も盛んに協議をしているところでありまして、いろんな意味でこのネットワークを開催して頂く意義は深いと考えておりますので、遠いところでもありますけれども、皆様方のお越しをこころからお待ち申し上げます。

どうぞ、よろしくお願ひ致します。ありがとうございました。